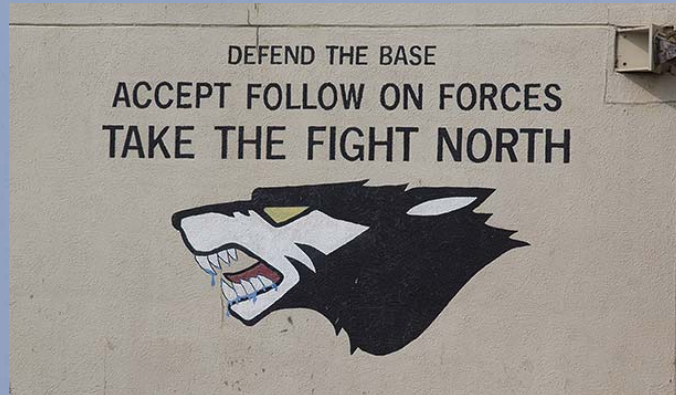


WOLFPACK



80th FS "JUVATS" KUNSAN AB, ROK

在韓米空軍8FW/80FSのF-16

Photography and Text by
Stefan Goossens/4AVIATION



韓国の首都ソウルから南に約120miles、黄海に面したクンサン (群山) ABをホームベースとする米空軍の8FW (第8 戦闘航空団) は、“Wolfpack” (ウルフパック、狼の群れ) のニックネームを持つF-16CM/DM (ブロック40) を運用する航空団で、PACAF (太平洋航空軍) の7AF (第7 航空軍) のもと、朝鮮半島有事の際の急先鋒としてつねに臨戦態勢にある。8FWが編成されたのは1948年8月10日で、編成以降本土のほか日本やタイ、朝鮮半島など東アジアに駐留する機会が多かった航空団だ。ウルフパックのニックネームがついたのはベトナム戦争中の1966~67年、タイのウボンABに派遣されていたところで、1967年1月2日の「オペレーション・ボロ」では、当時の航空団司令ロビン・オルズ大佐の指揮のもと、7機のMiG-21を撃墜したことで知られている (当時の運用機はF-4)。1974年からクンサンに配備されている8TFW (当時はTactical=戦術を示す「T」が部隊名に入っていた) が、米空軍初の海外展開F-16航空団となったのは1981年9月のこと。当時の運用機はF-16A/Bだったが、その後87年にF-16C/Dへと機種変更、そして92年に編成当時と同じFW (Fighter Wing=戦闘航空団) へと改編された (同時に隷下のTFSもFSに改編)。現在、8FW隷下には8OG (第8 作戦群) 指揮下の35FS “Pantons” と80FS “Juvats” の2個飛行隊を含む4群、13中隊が所属しており、2,700名の将兵がクンサンでの任務に就いているが、今回は80FSを中心に、最前線の訓練の様相を紹介したい。



現在の8FW司令はデイビッドG.シューメイカー大佐。クンサンABの基地司令と、7,000名以上が所属する在韓米空軍第6管区の司令も兼任する。1994年に空軍士官学校を卒業し米空軍士官として任官後、E-3 AWACSの機上観測士官を経てファイターパイロットとなり、F-16を中心に2,000時間以上の飛行時間を記録している。クンサンや三沢での勤務経験を持ち、東アジア情勢への造詣も深いシューメイカー大佐は「将来の展望を見据えることは簡単ではないが、われわれの役割は“Take the Fight North” (北で戦う) のモットーに準じて怠りなくしておくべきことだと理解している。クンサン任務に就く将兵たちは誰もが、ここからわずかに北に向かった先の明確な脅威を、しっかりと認識している」と話す。

Acknowledgements: Special thanks to Col. David G. Shoemaker, Capt. Chris J. Mesnard, 1st Lt Brittany L. Curry and Ms. Mi Chang.

Photo : USAF



Photo : USAF



↑→ 8FWには前述のとおり80Gに所属する2個F-16飛行隊が配備されているが、そのもうひとつの飛行隊が35FS。垂直尾翼のテイルコード「WP」はウルフパックに由来しており両飛行隊共通だが、上端のフィンバンドでその所属が分かるようになっており、35FSは青、80FSは黄色がユニットカラー（航空団司令機や飛行群司令機は2色で塗り分けられている）。なお、昨今の北朝鮮核弾道ミサイル配備の動きにともない、8FWには昨年AGM-158B JASSM-ERが配備されている。



↑ 80FSは第二次世界大戦中の1942年1月6日に80PS（追撃飛行隊）として編成されており、P-39やP-38を運用して太平洋戦域、ニューギニアのポートモレスビーで旧日本軍と戦っていた。“Juvats”のほか“Headhunters”（首狩り族）というニックネームも持っている同隊だが、これはいずれも南方の原住民に由来するもの。戦後は福岡県の板付基地に駐留、朝鮮戦争中は日本と韓国の基地を中心に活動したほか、ベトナム戦争が激化する以前の1960年代半ばには東京都下の横田基地374TFWにも所属しており、クンサンに移駐したのは1971年のこと（当時の親部隊は475TFW）。第二次大戦後、F-16に機種改変するまでの間には、P-51、F-80、F-86F、F-84G、F-100、F-105、F-4C/Dなどを運用している。1987年にF-16C/Dを受領した際には初期型ブロック30だったが、2007年にブロック40を受領、精密誘導爆撃などを主任務とする飛行隊となり、その後CCIP（Common Configuration Implementation Program＝共通仕様実行計画）改修によりSEAD（敵防空網制圧）任務なども行なえるようになった。

【3枚】クンサンは1938年に旧日本軍によって建設された飛行場。朝鮮戦争はいまも「休戦中」の状態、80FSの航空機はHAS（掩体）運用されている。また保安上の問題から、クンサン勤務者は家族を伴わない単身赴任が基本となっている。



Photo : Sang Ho Chang

← ここ数年、北朝鮮の挑発的な行動に対応するため朝鮮半島周辺での大規模演習が頻繁に行なわれており、2017年12月にはユタ州ヒルAFBの388FW/34FS所属のF-35Aやアラスカ州JBエルメンデルフーリチャードソンの3WG/90FS所属のF-22Aも参加した「ビジラントエース2018」が実施された（34EFSのF-35Aは現在も嘉手納基地に展開中で、写真の機体はAFRCのアソシエートユニット466FSの隊長指定機。後方にF-22Aも駐機している）。こうした地域演習に加え、8FWはアラスカで行なわれるレッドフラッグ・アラスカなどにも機体と隊員を派遣しており、その活動は多忙をきわめる。

→ クンサンには韓国空軍の111FSも配備されており、KF-16C/Dブロック52を運用している。同隊は2006年に改編が完了した韓国空軍のなかで最新のF-16ユニットだが、8FWのF-16とはエンジンが違い、プラット&ホイットニーF100を搭載している（F-16CM/DMはGE F110）。韓国空軍のKF-16やF-15Kも在韓米空軍の大規模演習には参加するほか、「マックスサンダー」「パディウィング」といったクンサンの部隊を中心とした緊密な連携を深めるための演習も頻繁に行なっている。

